

さいたま市総合振興計画審議会 調整部会（第1回） 会議録

日時	平成25年7月4日（木）午後6時30分～午後8時35分
場所	第二別館 第3会議室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計7名 大久保秀子／久野美和子／作山康／渋谷治美／長野基／中村仁／横道清孝 〔事務局〕さいたま市 政策企画部：江口部長 企画調整課：松井課長／小島課長補佐／松尾係長／富田主査／南主査／池田主任／鈴木主任 〔傍聴者〕0名
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）成果目標及び（仮称）皆さんも取り組んでみませんかについて （2）（仮称）重点戦略について （3）都市づくりの進め方について （4）各区の将来像について （5）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 資料1-1 「成果目標」に関する各部会の主な意見 ・ 資料1-2 個々の成果指標及び目標値に関する意見 ・ 資料2-1 「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか」に関する各部会の主な意見 ・ 資料2-2 分野別計画における「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか」一覧表 ・ 資料3-1 「（仮称）重点戦略」に関する各部会の主な意見 ・ 資料3-2 「（仮称）重点戦略」（素案骨子） ・ 資料3-3 分野別計画の審議における「（仮称）重点戦略」に関連した意見 ・ 資料4 都市づくりの進め方（素案骨子） ・ 資料5-1 「各区の将来像」（素案） ・ 資料5-2 「各区の将来像」に関する区民意見
問い合わせ先	政策局 政策企画部 企画調整課 電話 048-829-1035

## 1 開会

## 2 定足数の報告

**○司会** さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本日の出席委員は、委員総数8名に対し、現在のところ6名となっております。定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

中村委員につきましては、ご都合により遅れるとの連絡が入っておりますので、ご報告申し上げます。

また、矢ヶ崎委員につきましては、本日、ご都合により欠席との連絡が入っておりますので、ご報告申し上げます。

現在のところ、傍聴希望者と報道関係者はいらっしゃいません。

**○横道部会長** 皆様には、総会が開催されてからの約2か月半という短い期間で4回の部会開催と、お忙しい中大変お疲れ様でした。各部会とも活発なご議論をいただいていると事務局より聞いております。各部会においては、あと2回ほど開催が予定されておりますが、引き続きよろしく願いいたします。

はじめに、会議の公開と傍聴の許可について諮りたいと思います。本日は、傍聴者はいらっしゃいませんが、会議は公開としたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

**○部会長** ご異議がないようですので、本日の会議は公開としたいと思います。

## 3 議題

### (1) 成果目標及び(仮称)皆さんも取り組んでみませんかについて

(資料1-1及び資料1-2に基づき、「成果目標」に関する各部会の主な意見と今後の方針(※)について事務局から説明)

※各部会において、他市等の指標を参考にしながら、より適切な指標をもっと時間をかけて検討すべきとの意見や、ある程度根拠のある目標値にするべきとの意見など、様々な意見をいただいたことから、基本計画本体とは別にもう少し時間をかけて検討することとしたい旨を説明。

**○部会長** 成果目標については、少し時間をかけて検討したいという説明がありました。考え方も含めて、事務局で整理し、私も一緒に検討させていただき、その上で改めて皆さんにお示しするというところで、いかがでしょうか。

(異議なし)

**○部会長** それでは、成果目標についてはしばらく事務局で検討いただくこととします。次に、「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」について、事務局から説明をお願いします。

(資料2-1及び資料2-2に基づき、「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」に関する各部会の主な意見について事務局から説明)

**○部会長** 説明が終わりました。主な論点としては、「タイトル」と「内容のレベル感」の2点があると思いますが、いかがでしょうか。まず、各部会でどのような意見が出たかを、簡単にご紹介ください。

**○渋谷副部長** 第2部会では、「(仮称)皆さんも取り組んでみませんか？」についてはあまり意見が出ませんでした。なぜかと考えますと、第2部会の審議の対象であった健康・福祉の分野、教育・文化・スポーツの分野については、記載されている取組が、割と具体的で理解しやすかったからかもしれません。

先ほどの事務局からの説明において、私が同感した意見は、誰が誰に呼びかけているのかを明確にした方が良いということです。その場合、自律の精神が大切であり、市民が市民に呼びかける形にした方が良いと直感的には思います。

**○作山委員** 第1部会では多少意見が出ました。タイトルがやや古い市民参加の表現であるという意見があって、行政計画とは言え、市民と連携しなければうまく推進することができないものであるため、上から目線やお願いではなく、一緒に取り組もうという共助なり、あるいは市民が主体的に取り組む場合もあるので、連携の姿勢をどのように表現するかが悩ましいと感じています。

**○久野委員** 作山部会長のご説明のとおりで、協働の意味合いを盛り込むことで、市民がこれを見た時に、主体的に活動したり、提案するチャンスにもつながるのではないかという話でした。

**○部会長** 私も同感であり、このタイトルは、上から目線で押しつけられるという印象を受けるため、そう感じないような表現にしなければならないでしょう。先ほどの事務局の説明にあった代替案を書き出してもらって、タイトルを検討しましょう。

他に、内容のレベル感についてはいかがですか。記述が詳細すぎる、あるいは抽象的すぎるなどといった意見はありませんでしたか。

○**作山委員** 細かい指摘はいくつかありましたが、今回新たにこのような項目を総合振興計画に入れたことに対しては評価されていました。初めての取組ですので、内容の濃度については、概ねこの程度で進めてみようという感触でした。

○**久野委員** 個人的な見解ですが、総合振興計画は一般的に硬い表現を用いますので、このような非常に柔らかい表現を盛り込むことを、いかに評価するか迷いました。しかし、最近話題のDJボリスのように相手の気持ちを押し量ったような伝え方が、時代の最先端であることを強調できれば良いのだと思います。ただ、硬い表現の中に突然柔らかい表現が出てくるという違和感を消す工夫は必要だと感じています。

○**部会長** 私も基本的には同感で、あまり抽象的に記載するのではなく、小さなことかもしれませんが、具体的にリストを示して呼びかけ、一緒に取組を積み重ねることで、少しずつでも変えていこうということで良いと思います。ただ、計画の中で、この部分の位置づけが分かるような形にすれば良いと思います。

○**久野委員** 時代のキーワード、例えば、多様性の時代、個性が活かされる時代などを捉えて、その上で、市民が読んで面白いと思えるニュアンスを計画に盛り込むと、革命的な計画になりますので、ぜひ工夫していただきたいと思います。

○**部会長** ただいまのご意見は、後ほど議題となる「都市づくりの進め方」の部分でも、参考にさせていただければと思います。

話を戻しまして、タイトルについてはいかがですか。私の案としては、市民と市と一緒に取り組むことが感じ取れるように、「一緒に」という言葉を入れてはいかがかと思っています。

○**久野委員** タイトルを「皆さんも一緒に取り組んでみませんか」とし、サブタイトルを「～みんなで創るさいたま市の未来～」としてはいかがでしょうか。

○**部会長** ただいまのご意見を採用して、各部会の5回目で示すということによろしいですか。

○**作山委員** 概ね良いと思います。ただ、現行計画のタイトルは「希望（ゆめ）のまちプラン」で、次のステップを考えますと、市内では、すでに主体的な市民活動がかなり展開されていることから、もっとこうした活動と一緒に進めていくことを表せるように、「希望（ゆめ）と一緒に追いかけてよう」などの表現も考えられます。ですから、ここで出た表現に固執せず、計画全体のタイトルを意識して調整する必要があると思います。

○**部会長** ただいまのご意見を踏まえて、計画全体のタイトルとの関係も含めて、サブタイトルを付けるか否か、表現をどうするかなどについて、事務局で検討して、各部会の5回目で修正案を示していただきたいと思います。

続いて、議題（2）に入ります。それでは、（仮称）重点戦略に関して事務局から説明をお願いいたします。

## （2）（仮称）重点戦略について

（資料3-1、資料3-2、資料3-3に基づき、各部会の主な意見、素案骨子について事務局から説明）

○**部会長** 本日は素案骨子について皆さんからご意見をいただき、各部会の5回目で、素案についてご議論いただくとのことですが、ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問などがございますか。

○**久野委員** 新成長分野の産業政策が入っていないことは問題だと思います。これから生き抜くためには、体力や財政力のある地域をつくらなければなりません。グリーンイノベーションやライフイノベーションのように、時代の課題を解決することが新しい産業を生み出すことにもつながります。現在、市では技術を生かしたものづくりが進んでおり、テクニカルブランド、医療ものづくり都市構想、環境分野ではメガソーラー、次世代自動車などの取組があります。産業を創出、育成し、体力あるさいたま市として活性化するためには、産学官の連携が必要です。前回の第1部会では柱立てまではできなかったかもしれませんが、ぜひともお願いしたいと思います。

○**作山委員** 私も同感ですが、重点戦略の5番目が産業を意識したものだと思います。そもそも戦略の部分は非常に重要であり、少子高齢化への対応といった対症療法ではなく、どういう着眼点で行うのが大切かです。この素案骨子を生かすには、分かりやすいキャッチフレーズが非常に重要だと思います。

そこで、重点戦略の1番目は、“子どもたちの夢に応えるまちをつくる”として、夢という言葉を用いて注目を集めることが考えられます。

2番目は、県知事が掲げるウーマノミクスを参考として、“高齢者と女性が活躍できるまちをつくる”として、高齢者はもちろん女性も元気であることを掲げれば、重点戦略1の内容ともつながると思います。

3番目の冒頭の「市民や企業も一緒に」という表現には食傷しているので削除し、“環境にやさしいスマートさいたまスタイルを構築”などとして注目を集めるような言葉を用いることが考えられます。

4番目は、“災害への強さを生かしたコミュニティデザインを構築”などとし、コミュニティと災害への強さをPRすることが考えられます。

5番目は、悩ましいところですが、“市民とともにプロデュースする創造産業都市

づくり”を指すのでしょうか。現行計画で産業関連のことは各所で書かれていますので、戦略として、次に打ち出していくような表現を掲げてはいかがでしょうか。

**○長野委員** 重点戦略は、計画の目標年次である7年後をイメージできるようにすることが大事なポイントであって、身も蓋も無い表現で良いと思っています。単に良いまちをつくろうという優しい表現ではなく、例えば、都市の環境性能は国際競争力である、あるいは都市の防災性能を高めることは安全保障であると定義して、なぜやらなければならないのか明示した方が、力を結集しやすいのではないのでしょうか。

それから、高齢者をあまりにも敵視しているような表現が気になりました。高齢化に伴って社会保障費は当然増加しますが、さいたま市の特徴は、団塊世代の高齢化により、今後、退職金を持って地域に戻る人が非常に多いことであって、私なら、高齢者の知見や技術だけでなく財産も生かすと書きたいくらいです。今の記述では邪魔者扱いしているようですので、「高齢者は主戦力である」とパラダイムを転換し、今後7年間で高齢化が一気に進むことを考えると、高齢者も仲間であって、一緒にまちをつくるというスタンスにした方が良いと思います。

**○大久保委員** 皆様のご発言にもありましたが、計画全体を通じた優しげな表現や柔らかい表現が、果たして今の時代に合っているのかということは感じていました。

それから、高齢者に関する記述は私も気になっていて、高齢化の結果、都市の経済活動が停滞するというよりも、むしろ高齢者にターゲットを絞った経済活動があって、介護関連などのコミュニティビジネスを含め産業として成り立てば、身近な勤め先にもなります。あるいは、高齢者が主体となって活動し、地域の活性化につながることも考えられます。また、子どもが高齢者の姿を見て、将来の生き方を感じることもつながります。このように積極的に評価して、先ほどコミュニティデザインという言葉が出たように、さいたま市が目指すまちや全体のイメージがあると賛同しやすいと思っています。

**○副部長** この部分は、重点施策でなく重点戦略ですので、個々の施策の柱を網羅しなくても良くて、また、重点戦略の5番目は、「戦略」ではなく「戦術」になっていますので、5番目を削除して、産業を入れる方が重点になると思います。都市間競争を勝ち抜くために、市政は今後どこに軸を置くかという観点から言えば、子ども、高齢者、環境、防災までは直感的に当たっていると思いますので、この他に考えられるのは、やはり産業だと思います。表現の仕方については、身も蓋もない表現でも、優しい表現でも、どちらでも良いと思います。

**○部長** 最後を変えた方が良いというご意見については、皆さん賛同されているようですが、事務局から何かございますか。

○**事務局** 我々も悩みながら作成しておりまして、新しく産業を立てるというご指摘がある一方で、分野別の部会では、産業はすべての施策を支える関係となっているのご指摘もあって、そのこともうまく表現したいと考えています。ただ、今ご意見をいただきましたように、戦い方の面では、あえて産業を立てるように方針転換することもあり得ますので、今までは横断的な戦略を意識していましたが、考え方を転換しなければならないのだろうと感じています。

○**久野委員** おっしゃる通り、すべての分野に産業が関わっていて、高齢化、環境保全など時代の変化に応じた新しいビジネスが生まれていくので、各戦略に分散して入れるのではなく、戦略の1つの柱としていただき、どのような人口構成になっても伸びていくために、地域の体力をつけ、活性化するというミッションを持って、ぜひ産業戦略を入れていただきたいと思います。

○**事務局** ありがとうございます。産業はすべての重点戦略を貫く大切なものですので、産業を独立させるという形もありますし、産業を他の戦略より上位に置くような形もあると思っています。改めて考えさせていただきたいと思います。

○**部会長** 先ほど渋谷委員がおっしゃったように、柱立てはできれば5本が良くて、素案骨子の5番目を削除して、産業関連で立てられないか検討していただきたいと思います。

それから、重点分野ではなく重点戦略ですので、必ずしもすべての分野を網羅する必要はなく、ある程度この部分をやると明確に示せば良いと思います。例えばシンガポールでは明確に戦略を立て、いかに儲けるか、いかに優秀な子どもを育てるかということ掲げています。そこまで示して、受け入れられるかどうかは分かりませんが、考え方としては、先ほど審議した「皆さんも取り組んでみませんか？」を優しい表現とする一方で、重点戦略は、論理的かつキャッチフレーズを付けた形で提示してみたいかがでしょうか。

○**作山委員** 日本の首都圏は世界に稀な大都市圏で、都市戦略の発想はなかなか出てきませんが、世界レベルで見ると、欧州では100万都市圏はさほどありませんので、都市戦略を特徴づけることは当たり前となっています。さいたま市も、川崎や横浜、相模原、幕張などの業務核都市と競って、いかに特色を出すかを本気で考えなければならなくて、世界的な都市戦略としては遅れています。ですから、戦略は総花的でなく、的を絞って強く打ち出せば良いと思います。北欧は人口が少ないため女性にも働いてもらう必要があるのですが、さいたま市も今後高齢化するので同じことが言えるでしょう。そのため、重点戦略の5番目は、都市マネジメントの話として、2番目は、高齢者、女性による新しい知的産業をつくることを特色にするなど、極端な戦略は色々と考えられると思います。

○**部会長** 皆様のご意見を踏まえると、重点戦略の2番目で、高齢者が元気に活躍できるまちをつくることは書かれていますが、もっと積極的に高齢者を取り込んで、地域の活性化にもつながるように考えると良いでしょう。

○**副部会長** 重点戦略の順番も大事だと思っており、直感では、子ども、高齢者、産業、環境、防災の順が考えられます。防災を5番目とするのは、他を下支えするという意味合いですので、順番についてもご検討いただきたいと思います。

○**部会長** 様々なご意見をいただきましたが、重点戦略についての討議はここまでにしたいと思います。重要なテーマですので、皆様のご意見を踏まえまして、事務局には、第5回部会までに素案を作成していただき、各部会でご議論いただくようお願いしたいと思います。

続いて、議題（3）に入ります。次に、「都市づくりの進め方」（素案骨子）に関して事務局から説明をお願いいたします。

### （3）都市づくりの進め方について

（資料4に基づき、「都市づくりの進め方」（素案骨子）について事務局から説明）

○**部会長** 説明が終わりました。本日は体系について皆さんからご意見をいただき、各部会の5回目で、素案についてご議論いただくとのことですが、ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問はございますか。

ちなみに、これは、今回の調整部会で初めて示すものですか。

○**事務局** そのとおりです。

○**作山委員** 市民と行政の協働に関して、現行計画の2つの柱を1つにするのは構いませんが、制度の整備が進んだという認識は少し違うと思います。さいたま市には、まちづくり条例がなく、ボトムアップ型のまちづくりが遅れていて、全体的に上位下達のツリー状になっていると感じます。アレグザンダーは、都市はツリー構造ではなく、むしろセミラティス構造であると言っていますし、あるいは、企業の構成では、サークルネットワーク型という考え方もあります。私の考えでは、地球のような中心の核を行政として、そこから市民活動が360度広がっていて、それぞれネットワークされるイメージです。現在のさいたま市では、上から市民活動を仕掛けているのですが、市民活動自体がどんどん進み、行政とは細い線につながっていて、離れ過ぎているという印象です。区民会議などの市民が話し合う機会があっても、自主的にまちをつくるための制度、ボトムアップでまちをつくる制度がないのです。

本来は区がまちづくりの権限を持っていなければなりません、職員の充実はできないという逃げ腰では矛盾があります。本気で取り組むには、コミュニティデザイン

シティを目指すなど、ミクロな発想でまちづくりを素敵にしていくことを強く打ち出さなければならないと思います。

○久野委員 「市民と行政の協働」とありますが、内容は市の取組ばかりで一方通行という印象です。庁内のことばかり書いてあって、これが都市づくりの進め方なのだろうかというのが率直な感想ですので、もう少しみんなで協働して都市をつくるという未来型の表現があると良いと思います。

○中村委員 市民活動及び協働の推進条例には、事業者と大学についても明記されていますので、この計画でも同様に、協働の担い手としてきちんと位置づけた方が良いと思います。

○長野委員 「都市づくりの進め方」の前提となるものが気になっています。行政と他の主体の協力関係をつくるのが、都市づくりの進め方を貫く考えになっていますが、その前提となるのは、相互の信頼関係だと思います。最近、市では不適正事務処理が問題となりましたが、こういう不祥事が起きると、市と連携したいと考えている相手側からの信頼を損なってしまうという危惧があります。全体的に、行政と他の主体との関係性は、すぐに作ることができるような前提になっていますが、相互の信頼を担保するという基本的な部分をしっかりしなければ、うまくいかないのではないのでしょうか。「都市づくりの進め方」全体を貫く、行政と他の主体との協力関係の構築に対して、何らかの目配せがなければならないと感じています。

○大久保委員 都市という言葉が計画の各所にありますが、どういう都市をつくりたいのかが見えない、と分野別の部会で発言しました。そうは言うものの、さいたま市で働いていると、東京とのギャップが気にかかっている、この場で話しているようなユニークで面白い戦略を共有する相手である市民の幅が相当広がっていると感じています。子どもの教育や女性が働くことなどについて、意識の格差が非常に大きいと日頃から感じています。今この場で共有できても、市民に届くものになるかどうかは、行政の積極的な努力と新たな実践戦略が必要になるだろうと思います。また、高齢者の意識も格差があって、本当に市民活動をしたい人は東京に出てしまうように、新しい考え方の人にとってはあまり住み心地が良くない部分もあると言えます。

この面白い議論をぜひ共有したいと思うとともに、実際には、女性の就労率は低く、保育所よりも圧倒的に幼稚園が人気という現実とのギャップを埋めなければ、計画が市民から乖離してしまう恐れもありますので、とても舵とりが難しいと感じています。

○副部長 これまでの資料を見ていて気付いたのですが、「皆さんも取り組んでみませんか？」を計画に新たに加えたこと、重点戦略に情報発信が加わったこと、都市づくりの進め方など、これらから事務局の思いが何となく伝わってきます。つまり、コミュニティづくりをきちんとやっていきたいという思いが感じられて、そのことには大賛成です。しかし、そのための哲学が見えません。コミュニティづくりには、ルソーから始まる伝統的な厚みのある思想がありますので、さいたま市においても、市役所目線ではなく、コミュニティづくりの哲学があればもっと良いと思います。

○部長 事務局から何かございますか。

○事務局 「都市づくりの進め方」の構成の意図としましては、第1節では協働で1つ柱を立てて、その前提として情報を共有し、信頼を得た上で協働を進めたいと考えています。第2節は市役所内部の取組で、こちらのボリュームが多いために、市役所内部のことが多いという印象を与えるのかもしれませんが、協働については、基本構想の都市づくりの基本理念に掲げている一番重要な考え方ですので、全体を貫くような考え方については、もう少し整理していきたいと思います。

○部長 市民と行政の協働とは言っても、最終的には市の施策をまとめた行政計画になりますので、中心となるのは市の取組ですが、それでは不十分なので、市民と一緒に協力しながら進めようということだと思います。2つの柱立ては良いのですが、内容については、本日の意見を参考させていただきたいと思います。

私からも発言しますと、第1節「(1) 行政情報の共有感の向上」について、「共有感」という主観的な表現は使わずに、「情報共有」が良いと思います。

○作山委員 「将来を見据えた行財政運営」の第3節に関して、これを本気で考えるならば、例えば、横断的な調整機能の推進体制、行政シンクタンクの設立、政策立案能力を高める職員研修などが考えられます。行政シンクタンクをつくらなくても、さいたま市には大学が多いという特徴を生かして、東京に移転してしまう危機感を感じながら、大学、企業、行政、市民が連携してもっとやれることをPRしなければ、もったいないと感じます。市内の知恵を結集し生かす仕組みを考えていただきたいと思います。

○副部長 市民と行政の協働に関して、先ほど「皆さんも取り組んでみませんか？」のところで発言した自律やオートノミーの観点から言いますと、市民と行政は別物で両者が協力して働くという一方で、観点を変わると、市長は市民の代表で、市議会議員も市民の代表なので、みんなが市民と言うことができ、市民同士が様々な立場で一致団結してコミュニティをすばらしくすることが自律だと思いますので、その意味で自律を意識すると、今後の呼びかけ文や体系も整理がつくような気がしました。

○**部会長** 様々なご意見をいただきましたが、「都市づくりの進め方」についての討議はここまでにしたいと思います。第5回部会では素案が示されるとのことですので、さらにご議論をお願いいたします。

続いて、議題（4）に入ります。「各区の将来像」に関して事務局から説明をお願いいたします。

#### （4）各区の将来像について

（資料5-1及び資料5-2に基づき、「各区の将来像」の素案作成過程等について事務局から説明）

○**部会長** 説明が終わりました。この「各区の将来像」については、今、事務局より説明のあったとおり、アンケートやワークショップ、検討懇話会で市民や各種団体からの意見を伺いながら作成してきたとのことですので、できる限り尊重したいと考えますが、どなたかご意見はありますか。

○**長野委員** 岩槻区の将来像に「地下鉄7号線の延伸促進」と明記してありますが、私はペンディングと理解していますが、ここに記載するという事は、地下鉄7号線延伸を進めるということですか。

○**事務局** 地下鉄7号線につきましては、延伸を進めるというスタンスで、最終的な決断は少し時間をいただくこととなりますが、延伸に向けたまちづくりをして状況を変えていこうという段階です。

○**作山委員** ボトムアップで作られたものということで、内容について意見はありませんが、将来像は少し気になります。全市的には再検討してきたのに、なぜ区の将来像は前回策定したまま通さねばならないのか気になっていて、特に、北区と南区については、区民からも意見が出ているように、一般的な表現なので区の特徴が分かるように、再検討する必要があるのではないのでしょうか。この将来像も含めてボトムアップで決めたことなので良いとする考え方もありますが、他の区の将来像には地域の特徴が表れていますので気になりました。

○**部会長** ただいまの意見について、事務局から何かありますか。

○**事務局** 例えば北区の懇話会では、将来像について議論が盛り上がりましたが、最終的には、現行計画には無かったサブタイトルを付けることでまとまりました。現行の各区の将来像は多種多様ですが、これも公募市民によるご提案を生かしたためで、市民の皆さんが考えたものを、行政からはなかなか変えづらいところです。色々な意見は出ましたが、基本的にはお示ししたものに落ち着いたと考えております。

○**部会長** 計画全体との関係は気にかかりますが、各区の将来像はボトムアップで作成したという経緯がありますし、また将来像には、こういうまちづくりをしたいという一種の夢を整理したということでしょう。

○**久野委員** 計画全体との関係は調整しようがないと思いますので、各区の将来像は、区民の皆さんがつくったことを明記すれば良いのではないのでしょうか。

○**部会長** ただいまのご意見のように、計画における「各区の将来像」の位置づけを入れると分かりやすいと思いますので、事務局で工夫してください。

○**事務局** 補足として、先ほど地下鉄7号線に関するご指摘がありました。区の将来像の内容については、分野ごとの施策と不整合がないかを、策定過程の中で各所管に確認しています。区民の皆さんで作成したため表現は様々ですが、分野別計画との齟齬がないことは確認しています。

○**部会長** 他にご意見などがなければ、「各区の将来像」についての討議はここまでにしたいと思います。

委員の皆様には、活発なご発言をいただき、ありがとうございました。

最後に、「その他」といたしまして、事務局から何かございますか。

## (5) その他

(第2回調整部会の開催日程について事務局から連絡)

- ・7月29日(月)午前10時から、ときわ会館5階小ホール

○**部会長** 以上をもちまして、本日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様から何かご意見はございますか。

(意見なし)

○**部会長** それでは、他にないようですので、これをもちまして、本日の議事は終了させていただきます。委員の皆様のご協力により円滑な議事進行ができましたことをお礼申し上げます。

4 閉会

以上